



第31回 新酒とふるさとの 味まつり オープニングセレモニー



平成最後の 大盤振舞い

例年の2.5倍の4斗(72リットル)の新酒を振る舞い酒として用意した当イベント。樽前

「遠路遙々」なんのその
2月10日(日)、雲ひとつない青空のもと、第31回新酒とふるさとの味まつりオープニングセレモニーが高森町観光交流センターの芝生広場で開催されました。
一切火入れをしていない瑞々しい新酒を味わおうと県内はもちろんのこと、福岡県や鹿児島県など九州各地から集まった、1500人(延べ人数)もの来場客で賑わいました。
ハンドルキーパーを伴った人吉市からの参加者は、「たまには焼酎以外も飲みたい」と嬉しそうに話しました。「とても良いイベント。アクセスがもう少し良いと近隣地域からお客さんが沢山来ると思う」と話すのは、南阿蘇村から来たという夫婦。
飲酒をする人にとっては、ハンドルキーパーが公共の交通機関頼みのイベントだけにそのような意見も聞きました。

には長蛇の列が出来ました。内牧からの参加者は、「新酒は甘くてスルスルと入ってしまう」と頬を紅潮させ嬉しそうに話しました。
主催者の高森町観光協会の後藤会長は「平成最後の新酒まつりを大いに盛り上げるため、お酒を増量し、のっぺ汁を500食振る舞いました。野外での開催に備え、来場客の皆さんに生の寒新酒を楽しみながら暖を取っていただけたよう、焚き火も用意しました」と気合いを見せました。



ステージイベントでは「YOSAKOI(よさこい)「小巻組」が威勢の良い踊りで会場を活気づけるなど計6団体が出演。「味まつり」ということもあり、高森の地粉・調味料で作られる「ふ菜やき」をはじめ、やまめの塩焼き、牛すじ煮込みなど会場内には15団体が出店し、あちらこちらから食欲を駆り立てる香りが立ちました。

毎週日曜日楽しめる

この祭りは1ヶ月間、町内の飲食店・宿泊施設(のぼり旗が

新酒とふるさとの味まつり ラストイベント 3月10日(日)

午前11時から午後3時まで
高森町観光交流センター周辺

日本酒「れいざん」の新酒・樽酒
おたのしみくじ付き枰を販売します!



設置してある施設で楽しめるほか、毎週日曜日は「新酒とつま創作料理ミニフェア」と称し高森町観光交流センターで音楽も楽しめるミニイベントが開催されます。
イベント最終日は3月10日(日)、阿蘇あか牛の丸焼きなど約30店舗が出店します。味噌の詰め放題も人気の催し物のひとつ。
山村造合名会社・企画広報部次長の山村弥平さんは、「オープニングとラストイベントでは、実は新酒の味が僅かに違います。飲み比べてみてください」とラストイベントでの楽しみ方を教えてくれました。

東京でも「れいざん」が?! 銭湯くまモン

東京はスカイツリーのお膝元にある銭湯「大黒湯」で、熊本県の魅力を発信する県の事業が2月6日(水)から約1ヶ月間開催。高森町の「れいざん」の酒粕風呂が9日(土)にお目見えしました。利用客からは「体が暖まった。ほんのりと酒が香りとても良かった」と大好評。この日700人以上の利用客が楽しみました。

